

2021年12月5日(日)の士官学校長ゲイル・ホワイト少佐のメッセージ

古代に王様が行進する際は王に先立って使者が前を進み、道にある障害物を取り除きました。バプテスマのヨハネは王であるイエスに先立って遣わされ、人々の心から汚れを取り除くようにと勧めたメッセンジャーです。わたしたちクリスチャンも同じように「道を備える」という務めが与えられています。もちろんイエス様はすでにおいでになりましたが、多くの人はまだイエスを知りません。先週、士官学校（神学校）の伝道キャンペーンを都内の小隊（教会）で行い、たくさんの大人と子どもが集い、日曜日の礼拝にメッセージを聞きに来る方々もいました。わたしたちは人々に福音を伝えるためには、まず自分の心が清められている必要があります。マラキ書に出て来る「レビの子ら」とは神殿に仕える祭司たちでしたが、彼らは心が汚れていたのもう一度清められなければなりません。わたしたちも、心の中にある神に喜ばれないものを取り除いていただく必要があります。そうでないと、わたしたちが神にささげる働きを神に受け取っていただくことができないからです。マラキ書 3:3 を読んで、火で精練されるという表現に興味を持った女性が、実際に冶金工房に行って、金や銀が高温で溶かされ、不純物が取り除かれる様子を見学したそうです。職人さんは「銀が溶けているあいだは一瞬も目を離すことが出来ない。そうでないと、銀がダメージを受けて使い物にならなくなってしまうから」と言いました。どうしたら最適のタイミングがわかるのですか、と女性が聞くと、職人さんは「銀の表面にわたしの顔が映るようになったら、それがタイミングです」と答えたそうです。職人の顔が銀に映し出されるのを待つ。それは、イエス様の顔がわたしたちの存在に映し出されるのを待つ、という救世軍のコーラスの歌詞を思い起こさせます。それは、きよめを求める歌です。神のきよめる炎は、わたしたちの存在を破壊するものではありません。炎は金や銀を溶かして不純物を取り除きますが、むしろそのことによって金や銀の価値は増すのです。神は同じようにわたしたちにして下さいます。それは痛みを伴うかもしれません。しかし、わたしたちがキリストの御顔を映し出す者となるには、そうしたプロセスを通る必要があります。職人が決して銀から目を離さないように、神様もわたしたちの中にキリストの姿が完成するまで一瞬も目を離すことがありません。それは、なんとすばらしいことでしょうか。わたしたちが福音を伝えて行くためには、周囲の人々がわたしたちの中にキリストを見ることができるようにならなければなりません。神様は最善を求めておられます。周囲の人たちがキリストを知ることができるように、神様があなたを整えて下さいます。